

科目名		日本史(Japanese History)									
学 年	学 科(コース)	単 位 数		必修 / 選択		授業形態		開講時期		総時間数	
第3学年	機械工学科 電気工学科 制御情報工学科 物質工学科 経営情報学科	履修	2 単位	—		講義		通年		60 時間	
担 当 教 員		【常勤】 教授 岩元 修一									
学 習 到 達 目 標											
科目の到達目標レベル		①時代とともに変化する農業・商業などの人間活動が社会や自然環境にいかなる影響を与えたかを説明できる。 ②世界の多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、説明できる。 ③日本を含む世界の多様な文化に関する理解をもとに、時間の変化の中で互いの文化の違いからどのようにして問題が生じるのか説明できる。 ④今日の国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について説明できる。									
到達目標 (評価項目)		優れた到達レベルの 目安		良好な到達レベルの 目安		最低限の到達レベルの 目安		未到達レベルの 目安			
到達目標 ①		人間活動の変化が社会や自然環境にどのような影響を与えたかについて、8割以上の基礎的知識をもとに論理的に説明できる。		人間活動の変化が社会や自然環境にどのような影響を与えたかについて、7割台の基礎的知識をもとに説明できる。		人間活動の変化が社会や自然環境にどのような影響を与えたかについて、6割台の基礎的知識をもとに説明できる。		人間活動の変化が社会や自然環境にどのような影響を与えたかについて、6割の基礎的知識をもとに説明できない。			
到達目標 ②		日本の多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、8割以上の基礎的知識をもとに論理的に説明できる。		日本の多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、7割台の基礎的知識をもとに説明できる。		日本の多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、6割台の基礎的知識をもとに説明できる。		日本の多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、6割の基礎的知識をもとに説明できない。			
到達目標 ③		日本の多様な文化に関する理解をもとに、歴史の中で互いの文化の違いから問題が生じる背景について8割以上の基礎的知識をもとに論理的に説明できる。		日本の多様な文化に関する理解をもとに、歴史の中で互いの文化の違いから問題が生じる背景について7割台の基礎的知識をもとに説明できる。		日本の多様な文化に関する理解をもとに、歴史の中で互いの文化の違いから問題が生じる背景について6割台の基礎的知識をもとに論理的に説明できる。		日本の多様な文化に関する理解をもとに、歴史の中で互いの文化の違いから問題が生じる背景について6割の基礎的知識をもとに論理的に説明できない。			
到達目標 ④		今日の国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について、8割以上の基礎的知識をもとに論理的に説明できる。		今日の国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について、7割台の基礎的知識をもとに説明できる。		今日の国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について、6割台の基礎的知識をもとに説明できる。		今日の国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について、6割の基礎的知識をもとに説明できない。			
学習・教育到達目標		(F)			JABEE基準1(2)						
達 成 度 評 価 (%)											
評価方法 指標と評価割合		中間 試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	レポート	口頭 発表	成果品	ポート フォリオ	その他	合計	
総合評価割合		30	30	10	10	20				100	
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】		◎	◎	◎	◎	◎					
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】		○	○	○	○	○					
汎用的技能 【 】											
態度・志向性(人間力) 【 】											
総合的な学習経験と 創造的思考力 【 】											

関 連 科 目 ， 教 科 書 お よ び 補 助 教 材	
関連科目	現代社会
教科書	新日本史(山川出版社)，図説日本史通覧(帝国書院)
補助教材等	
学 習 上 の 留 意 点	
①評価の6割は講義の学習内容を定期試験で確認します。授業では教科書・副読本を使った説明をよく聞き、講義をしっかり理解し自分の言葉で内容を説明できるようになって下さい。②残りの評価のうち、2割はレポートや課題などの提出を求め評価します。必ず期限までに提出して下さい。③後の2割は授業中、教員が口頭でいろいろ関連項目を質問して口頭で回答してもらい評価します。たとえば評価を付して返却物がもどってきた後、授業で同じ内容を質問した場合に自分の言葉でどの程度回答できるかが評価の基準になります。④なお、欠席状況は各自で担当教員に尋ね確認してください。また、再試はしませんので注意してください。	
担 当 教 員 か ら の メ ャ セ ー ジ	
①過ぎ去った過去を学ぶことにどのような意味があるのでしょうか。私たちは歴史を知らなくてもおそらく普通に生きていきます。しかし、過去の出来事を全く知らないで生きていくことと、それなりに過去の出来事を知って生きていくこととの間には大きな違いがあると私は考えています。結局、どのような人生をあなたが望むかということと関係しています。少しでも豊かな人生を求めるのであれば、出来ることなら、似たような過ちは繰り返さない方がよいでしょうし、周りの人たちといつまでも良い関係でいた方がよいではありませんか。ここでいう過ちが人の生死にかかわることなら尚更です。そのための第一歩は周りのことや相手のことを知ることです。私たちは過去との対話を通して、相手の意見や立場を知ることが可能です。②ふつう歴史は暗記物といわれます。確かに試験では暗記で点を取ることが可能です。しかし、それは一つしか答えがない基礎的な問いについていえることです。一方で世の中には答えが一つではなく、簡単に答えの出せない問いがたくさんあります。2年生の世界史の授業では、基礎的事項の学習が中心となります。それは、答えが簡単に答えられない問いを考えていくために必要な基礎を身につけるためのものであることをよく理解しておいてほしいと思います。	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	導入	シラバスの内容を説明できる。異なる文化の人たちと関わることで生じている現代日本の課題について説明できる。	資料を配付する。
2	地球環境と日本	日本人の祖先はいつ頃、どのような自然環境の日本にやってきたのか、どのような生活を送っていたのか説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
3	天皇と貴族と武士	日本の特色である天皇、そして貴族と武士の生き方について説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
4	幕末の日本と経済	開国と通商開始で日本の産業や商業がどのように変化したのか、説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
5	明治の日本	1870年代の日本外交の在り方と1880年代の憲法成立を軸に、江戸時代と比較してどのように変化したのか、説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
6	日本の産業革命（1）	日本の産業革命について世界の動きをふまえて説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
7	日本の産業革命（2）	日本の産業革命が進展する中で、自然環境や在来の地域社会にどのような変容がもたらされたか、説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
8	中間試験		
9	試験返却と解答。朝鮮半島と明治の日本	日清戦争の背景となる1880年代の朝鮮半島と日本との関係について、江戸時代までの文化面の交流も含めた日朝関係をふまえて説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
10	日清戦争	日清戦争の直接のきっかけ、経過、結果を通して当時の日本と世界の在り方を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
11	日露戦争	日露戦争の背景、経過、結果を通して当時の日本と世界の在り方を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
12	20世紀初頭の日本と世界	韓国併合とその後の日本について、民族や文化の問題も含めて説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
13	第一次世界大戦と日本	日本と第一次世界大戦との関わりについて、中国（中国国民の対日意識も含めて）との関わりも含めて説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
14	第一次世界大戦後の世界	戦後世界の再編と日本の在り方について、外交・文化の面から説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
	前期末試験		
15	試験返却と解答。夏季レポートの説明。		

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
16	1920年代の世界と日本	経済面から1920年代の日本と世界を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
17	1930年代の世界と日本	経済面から1930年代の日本と世界を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
18	満州事変	満州事変の背景、経過、結果を通して当時の日本と世界の在り方を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
19	日中戦争	日中戦争の背景、経過、結果を通して当時の日本と世界の在り方を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
20	1930年代の外交と国民	日本が外国とどのように関わったか、外交面から国民の反応をふまえて説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
21	太平洋戦争（1）	日米対立の背景と開戦までの経過を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
22	太平洋戦争（2）	戦争の経過と国民の生活を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
23	中間試験		
24	試験の返却と解答。20世紀後半の世界の始まり	第二次世界大戦の終結内容と戦後世界秩序の在り方を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
25	占領下の日本（1）	日本占領の仕組みと初期占領の在り方について、日本文化の伝統にもふれながら説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
26	占領下の日本（2）	占領政策転換の背景と独立の背景を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
27	独立後の日本	独立後から1970年代までの日本の在り方を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
28	戦後日本の経済	経済の面から戦後の日本を説明できる。	前回の内容の復習を授業で実施。予習のため次回の授業の範囲を伝達する。
29	現代の日本	全体として20世紀後半以降の日本の在り方について説明できる。	
	学年末試験		
30	試験返却。アンケートの実施。		
総 授 業 時 間 数			60 時間